

教育委員会

コラム Vol.15

教育長室の窓から

教育課程



学校の独特な言葉に「教育課程」というのがあります。

教育課程は「教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」です。授業を含め学校の諸活動は、教育課程に基づいて行われます。私の若い頃は、年度途中で新たな行事を入れたり行事を取りやめる際には、変更届を教育委員会に提出する必要がありました。近頃、外部からの学校への急な要請などが増えていますが、子どもたちの教育を意図的・計画的に進めている学校にとって容易なことではありません。学校にとって最も大切なのが教育課程です。令和7年度も教育課程に基づき、学校の教育活動が行われています。

次年度（令和8年度）に向けた教育課程編成は、学校によりばらつきはありますが10月か11月あたりから始まります。教育委員会でも、早め早めに次年度の見通しなどを学校に伝えているところです。

ところで、近年、「地域に開かれた教育課程」という言葉が教育関係者の間で聞かれます。これは「学校の教育課程を通じて、子どもたちが、社会や世界とつながりよりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していく力を積極的に育もうとする考え方」です。

学校の主な効果としては「教育や子どもたちに対する責任と役割を学校が地域と分かち合うことで、学校の教育活動に対する理解者と支援が増える」ことが言われています。

地域の主な効果としては「地域課題の解決につながる活動を通して、地域づくりの担い手が育成されるとともに、地域の教育力（地域行事等への参加や協力体制）が向上する」と言われています。

本町の全ての学校は、この「地域に開かれた教育課程」を柱の一つにして、地域と一体となって子どもたちの教育に取り組んでいます。



教育長の

ちょっといい話

人の縁の不思議さ

CheFuKo



教育委員会に届く雑誌の「菜々子の一刀両断」の見出しが目にとまりました。前文には「私の名前は、松下菜々子。深川門前仲町で久寿乃葉という小料理屋を営む。猛暑が続くが、久寿乃葉のエアコンは壊れたまま。念のために付け加えるが、倒産間際で直す資金がないのではない。大家さんが、大工事はやめてくれと難癖をつけ、それに菜々子が反発してらちがあかない。」とあり、「えっ久寿乃葉」と驚き、まさしく久寿乃葉で聞いた話そのものでした。松下菜々子は仮名ですが、まさしく久寿乃葉の女将さんです。以前、ウクライナの子どもたちの交流（ロシアとの戦争前ですが、私の最後の勤務校でウクライナの子どもたちを受け入れました。）や東日本大震災の際に、福島県に支援に入り今も続けている団体（一般社団法人 CheFuKo）の方（CheFuKoの方は、店の常連）と、肝付町に来る前に何度か訪れたことのある店で、マスコミ関係者、出版関係者がよく来店していました。

久寿乃葉の女将さんは、肝付町の出身の方です。店には本町出身の皆さんが、東京周辺はもとより関西からも集い毎年同級会をしているそうです。その後、私が肝付町に勤めることになり、不思議な縁、繋がりに驚きました。現在、町内には、お姉様が住んでおり大変お世話になっています。さらに、その店でお会いした本町出身の大阪在住の方から、「町の広報を読んだよ」とわざわざ電話をいただき感激しました。

皆さん、80歳を超えた方々ですが、同級生のきずなが強く私も助けられています。

10年以上前からの CheFuKoの方との縁が、久寿乃葉の女将さんと繋がり、肝付町出身の方々にも出会い、不思議？としかいいようのない、人の縁、繋がりをこれからも大切にしていきたいと思っています。